

光触媒機能を有するフッ素樹脂塗料

ピュアコート

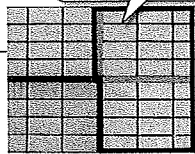
ピアレックス・テクノロジーズ

<http://www.pialex.co.jp/>

ここは、デュボン社のフッ素樹脂系イオン交換樹脂「ナフィオン®」を世界で初めて光触媒塗料のバインダーに採用しており、他の光触媒塗料と基本的構造が異なっている。有機樹脂なので柔軟性に富み、塗膜の伸張率330%という性能で、従来品（無機系）では不可能とされたシーリング材への塗装を可能にしている。また同社は外壁塗装工事を材料費込みで一括請負いできるのでコストコントロールがきく。光触媒コーティングのほかに、打放しRC壁の防汚または塗装による再生なども行う。（枠内のみピュアコートSを施工 屋外曝露約1年）

注目!

シーリング材の防汚は画期的。外壁の汚れで困っている方は必見（山本）



ディテールの選択肢が少なく非常に不自由ですよね。
山本 目地で気になるのは、ある程度以上の大きさになると縦目地がでてくることです。横目地の場合は相じやくりや本実である程度防水できますが、縦目地の最終的な防水はシーリング頼りになる。そうすると、外装パネル面の防水性能の耐久性は、結局シーリングによって左右されるわけです。この縦目地がサイディングの大きな問題点で、意匠的にも、性能的にも弱点になっていると思います。
木島 この間、私も初めてサイディングを使いました。窯業系で黒と白の2色のフラットなものを大きな面で使い分けたいと考えたのですが、経年変化が気になり築10年くらいのモデルハウスを見に行きました。すると、黒も白もサイディング自体はそれなりにきれいなのですが、シーリングジョイントの汚れがひどく、特に白だと目地割がとも目立つてくることばかり、白はリップ状で目地が隠れる夕

欠かせない塗装とシーリング

山本 結局、シール部分の汚れが目立ってくるんですよ。最近では、シール用の防汚材があるんですよ。光触媒コーティングのピュアコートSというものです。

木島 それは良さそうですね。シールだけを頼りにするディテールは何かと問題になりませんが、もしシールがもつと多機能に進化したらそれこそ建物が変わるような気がします。

工場塗装品の中途半端にテラツとした艶の感じも何とかならないでしょうか。マットな感じがほしくて質感で最終的にメーカーを決めたりしました。

山本 ただ、この質感も性能に関わってくるようなところがあつて、ツルツルしているというよりは、やはり汚れが付きにくいことでもあるわけです。しかし一方で、我々としては素材そのものの自然な風合いが欲しいと思う。ラムダの新製品で、「ラムダム」というのが出ましたね。ラムダって濡れると濡れ色になる素材なので、現して使う場合は、現場で撥水塗装していましたが、これはラムダ側で工場塗装したものです。クリアなので、ラムダのセメント色の風合いを損なわないし、現場クリア塗装の不安定さを考えると、性能がいい。

木島 この嵌合部分にもきちんと塗装されているのがいいですね。木張りの場合でも、現場で張ってから塗るのではなくて、製材した状態で塗装しておいてもらうと性能や耐久性が違ってくるのと同じですね。床暖房するときの床フローリングは裏まで塗装してもらったりしていますが、外装ではそこまでなかなかやらないですよ。

山本 どんな素材でも最後は塗装するわけですが、塗装は基本的に樹脂系なので、結局はプラスチックの性能頼りなんですよ。塗装も、流行の光触媒をはじめとして、いろいろなバリエーションが出ています。

注目!

工場塗装の安定感をもちながら素材の

防汚処理済み

木島 ない、ディー！信頼、ます。いう、汚れ、中村、た北、えて、木島、きか、中村、の、剤の、の、イタ、良行